

が、特に擧ぐべきは、岡田正三氏が單獨でプラトーン全集講譯の偉業を計畫され、メノン、カルミデス附イオン、ゴルギアスの三卷を公にされ、しかもその巧な語句の驅使によつて、多くの讀者をプラトーンに導き、絶大の賞讃を博されたことである。併し、氏の前には多くの困難が横つてゐる。我々は、一層哲學的内容の豊富な、そして今日最も關心をもたれる後期の諸對話篇も、氏の明快なる筆によつて國語に移されんことを切望する。

最近に、東京河出書房はアリストテレス全集の出版を豫告してゐる。全二十卷より成り、豫約法によらず、單行本として刊行される由である。その大部分は既に譯者も決定して、近く刊行豫定のものも二三ある。本誌關係者で參加されるのは、山内得立氏(トピカ)藤井義夫氏(分析論)田中美知太郎氏(生成と消滅)高田三郎氏(ニコマコス編倫理學)石山修平氏(大道徳論)小田清氏(エウテモス編倫理學)等である。(以上服部英次郎輯)

## 新刊紹介

一一二

### 心理學論文集 第四輯(日本心理學會第四回大會報告)

心理學は醫學生物學等と同様たえずホジチヅな研究によつて進歩を續けて居り心理學の専門的研究に従事するものも一般に心理學に關心を持つものも之を無視してその正當な認識を得ることは出来ない。かゝる研究はまた烈つた著書に於てよりも雜誌に於て學會に於て發表されることが多いが、雜誌は比較的詳細な記述を許す代りその研究は相當纏つたものたるを必要とし掲載される論文の數も相當限定されて來る憾みがあり、かくて心理學界の現狀に對する概觀的認識を得るに便である點に於ては簡單にして數の多い心理學會の發表を尙ふに著くはない。此の「心理學論文集」もさう云ふ學會の報告として貴重な便利な文獻であると云はればならぬ。

収録せる研究は宿題報告「意志と行動及び個性」(大脇)、「無意識の問題」(小山、高橋、千葉、丸井、小宮、勝本)の外、「覺の成立條件」(黒田亮)、「精神生活と獨立體系の基礎的聯關」(増田惟茂)等の基本的なるものから音響、色彩乃至運動、比較等に關する一般心理學的なもの、兒童心理學、未開人の心理學、精神分析學、産業心理學等に至る各領域にわたるもので其の數八十五に上つてゐ

る。此の数は前回(東京)の大會報告に於ける論文數百十四には及ばぬとしても第一回(東京)の六十一、第二回(京都)の八十一を凌駕し、殊に四月中旬仙台の如き比較的邊陲の地に於いて開かれたるものとしては寧ろ豫想外に多いと見なければならぬ。

かくて此の論文集も我國心理學界の發展を刻むものであるが併しそれにつけ反省すべき點も少くはない。日本心理學會長松本亦太郎博士は本書の序文に於いて此の點にふれられ、我國の心理學研究所の数は十七に上り北米の約二十、獨の約十二、英の四五、佛伊の各四に對し數に於いては世界の優位を占め、精細にして充實せる研究も次第に多からんとするにかゝらず、なほ我國の心理學界に於いては各研究者間の組織連絡が乏しく研究能力の經濟的統制の不充分なること、發問法検査法等に對し實驗による精細なる研究の比較的少いこと、歐米に於ける新しい學說又は態度の導入を急いでそれらの史的評價と事實的檢討とに努力することの足らぬ憾のあることなどを警めて居られる。かゝる事態は種々の事柄にあらはれるであらうが例へば我國の心理學界に於いては松本博士の最年長者として活動されてゐる外、現在の各研究所主任は多く五十前後の人々であつて、これより年長の人々の數の歐米心理學界に於けるその年輩の人々の數に比し著しく少いことなどは我國心理學界の未だ若く人間の根柢の十分深からざることを示すものであり、又歐米諸國に於いては研究所數と略同數、即ち北米の研究室二十に對し雜誌約二十、英の研究室四五に對し雜誌四五の如く、の雜誌數があるに對し我國に於いては研究所十七に對

し雜誌僅かに約五に止まることなどは各研究室の活動未だ充實せざることを顯すものであると云ふべきであらう。なほ松本博士の言の如く實驗的研究の少いと共にその他面心理學に於ける哲學的或ひは人間學的省察の殆ど缺けてゐることが一方病態心理學などに關係してゐる我々の立場から殊に痛感されるのである。

是の如くして我國心理學界は着々進歩しつつあるとは云へなほ多くの弊と缺陷とを藏してゐる。これらの除去は心理學界内部に於けるものの精進と反省とを必要とすること勿論であるが又哲學者などの側からも一層の鞭撻と批判とが望ましいこと論を俟たない。近頃我國の哲學者の間にも心理學の問題に關心を持ちその批評等をも試みられる人も(例へば高山岩男氏の如き)現れて來たがなほ多くの人々からの關心と批判とが向けられることを希望してやまない。さう云ふ意味でも私は此の「心理學論文集」が多くの哲學界の人々に讀まれることを願ふものである。(岩波書店發行、定價貳圓八拾錢)(佐藤幸治)

### 麻生義輝編 西周哲學著作集

西周氏が我が國に於ける西洋哲學研究の先驅者であつたこと、とくに「哲學」なる譯語の創始者であつたことばわれ／＼も風に聞いてゐた。しかし今日まで彼れの著作に直接してその思想なり、その西洋哲學についての知識の程度なりを窺ふ折がなかつたのは確かに不幸なことであつた。尤も西洋思想としては既に基督教が知られてなり、平田篤胤以後國學者は基督教を内面的に攝り入れ